

令和元年度
第2回

江東区総合教育会議議事録

令和元年12月9日（月）

江東区教育委員会

令和元年度 第2回江東区総合教育会議 議事録

- 1 開会年月日 令和元年12月9日(月)午後2時30分
- 2 閉会年月日 令和元年12月9日(月)午後3時30分
- 3 開会場所 江東区役所6階 教育委員会室
- 4 出席委員 区長 山崎孝明
教育委員 岩佐哲男(教育長)、橋本俊雄、進藤孝、眞貝裕利子、
鈴木清人
- 5 出席職員 大塚政策経営部長、武越教育委員会事務局次長、
油井企画課長、岩井庶務課長、谷川学校施設課長、太田整備担当課長、
大町学務課長、伊藤指導室長、堀越教育支援課長、池田地域教育課長、
栗原江東図書館長、

6 議題

- 1 英語教育の充実について
- 2 オリンピック・パラリンピック教育について
- 3 教育施策の大綱及び教育振興基本計画の改定について

7 審議概要

武越教育委員会事務局次長 それでは、ただいまより令和元年度第2回江東区総合教育会議を開会いたします。

本日の会議につきまして、傍聴したい旨1名の申し出がございました。傍聴を認めますので、事務局は、速やかに傍聴人を入室させてください。

(傍聴人入室)

武越教育委員会事務局次長 それでは、開会に当たりまして、主宰者であります山崎区長よりご挨拶をお願いいたします。

山崎区長 本日はご多忙の中、総合教育会議にご参集賜りまして、まことにありがとうございます。教育委員の皆様には、日ごろより江東区の教育に対しまして大変なご協力をいただき、ありがとうございます。

本日の総合教育会議では、オリ・パラ教育を議題として取り上げるほか、さらなるグローバル化に対応した英語教育の充実、また、教育推進プラン江東の計画期間が満了するため、現状の教育課題や今後の方向性等について意見交換いたします。

これからの江東区における教育施策を議論する有意義な機会にしたいと存じますので、皆様の活発なご発言をお願いし、私のご挨拶といたします。

武越教育委員会事務局次長 ありがとうございました。

それでは、お手元の次第に沿って進めさせていただきます。ここからは山崎区長に議事進行をお願いします。では、区長、よろしくお願いいたします。

山崎区長 それでは、本日の議題に入ります。「英語教育の充実について」を議題といたします。事務局から説明願います。指導室長。

伊藤指導室長 それでは、英語教育の充実についてご説明いたします。資料1をごらんください。

はじめに左上のボックスからご説明をいたします。

新学習指導要領では、英語教育の充実が大きな柱となっており、小学校においては教科として外国語科が導入されます。導入の主な目的は、グローバル化の急速な進展に伴い、外国語によるコミュニケーション能力の重要性が高まり、小中高の一貫した英語教育の充実が不可欠となったためです。

具体的には小学校では3・4年で外国語活動を、5・6年で外国語科が導入されます。中学校では、対話的な言語活動が一層重視され、「話すこと（やり取り）」が設定されます。

右上のボックスをごらんください。

江東区では、英語教育を通して育みたいこどもの姿を、「英語で積極的にコミュニケーションをとれる子」と設定し、発達段階に応じて英語でコミュニケーションをする力を育むことを狙いとして、英語教育を進めてまいります。

中央のボックスをごらんください。

そのための手だてが、英語スタンダードを基盤とした授業改善であり、その具体策を下にまとめて示しております。後ほど、今後の取組みとしてご説明をいたします。

左下のボックスをごらんください。これまでの主な取組み等についてです。

本区では、こうとう学びスタンダードを柱として取組みを進めてまいりました。平成25年度に「英語スタンダード」を設定し、取組みを始めるとともに、平成26年度に指導資料を作成、配付して、授業での実施を促してまいりました。

また、ALT（外国語指導助手）の配置や、中学校ではスタンダード強化講師の活用を図るなど人的支援を行ってまいりました。また、英語

教育推進委員会、専門委員会を組織して、指導計画を作成するとともに、スタンダードの取組みの検証を行ってまいりました。さらには、教員研修の実施や、授業力向上アドバイザーによる公開授業等を通して、指導力向上にも努めてまいりました。

児童、生徒の実態についてです。学びスタンダード定着度調査の結果から、小学校、中学校の最終学年で結果を比較してみると、どちらも年々向上しております。小学校6年生では自信を持って自己紹介ができる子どもが約9割と増えており、コミュニケーションを重視した取組みの成果があらわれております。また、中学校では挨拶や道案内など、オリ・パラの機会などに活用できる力が高まっていると考えております。

その右に、今年度の全国学力・学習状況調査の結果の表をお示いたしました。中学校3年生の英語では、上位3都県と比較をすると、本区はそれを上回る結果となっており、これまでの成果の一つであると考えております。

右下のボックスをごらんください。今後の取組みの方向性についてです。

まず、ICT機器の活用についてです。タブレットパソコンや電子黒板等の活用を図ってまいります。小学校では英語の教科化に伴い、5・6年生では教科書を用いて授業を行うこととなります。今年度採択を行った教科書では、二次元コードを読み取ると英語の発音を聞くことができるように工夫されております。今年度、5・6年生の全教室に配備した電子黒板も有効に活用できると考えております。今後はデジタル教科書の活用が期待されており、コミュニケーションを重視した英語教育の充実にはICT機器の充実が欠かせないものと考えております。

次に、英語で話す機会の充実についてです。TGG（TOKYO GLOBAL GATEWAY）の活用の機会の拡充を図ってまいりたいと考えております。今年度から小学校5年生がTGGを訪れ、半日の英語漬けの学習を行っております。参加した学校からは、「日ごろの学習の成果を試すよい機会になった」、「自分の英語が外国人に伝わって嬉しかった」、「もっと英語を学びたいと思った」などの感想が届いており、成果が上がっていると考えております。今後は中学校2年生への拡大について検討中であり、3年間の自分の成長を感じ取れる機会にしていきたいと考えております。

カナダの短期留学については大きな成果を上げておりますので、今後も継続をしてまいりたいと考えております。また、現在も中学校英語学芸会を実施しておりますが、こういった取組みを一層進めていくとともに、スピーチコンテスト等学習の成果を発揮できる機会を確保してまいりたいと考えております。

次に、ALT、スタンダード強化講師の活用についてです。英語のスタンダード強化講師は現在中学校のみに配置しております。小学校にお

いて英語が教科として実施されることから、小学校にも拡充していくことを検討しているところです。また、ALTによる指導時数を小学校において拡充するなどして、こどもが英語でコミュニケーションを図る機会を増やしてまいりたいと考えております。

また、「その他」の東京都の事業ですが、英語の専科教員の配置について積極的に申請をしていくとともに、英語を得意とする教員が授業を交換するなどして、部分的な教科担任制の指導のあり方についても検討してまいりたいと考えております。その上で、主体的で対話的な授業の構築を目指し、指導資料の充実を図るとともに、見本となる授業の公開、小中の教員の合同研修会の実施などを通して、実践的に教員の指導力の向上を図ってまいります。

これらの取組みを通して、スタンダードの取組みをネクストステージへと進め、英語で積極的にコミュニケーションをとれる子の育成に努めてまいります。

山 崎 区 長 本件について質疑を願います。橋本委員。

橋 本 委 員 来年度から小学校の英語科が導入されるなど、英語教育の充実がより一層求められています。

本区ではこれまで「英語スタンダード」を基盤とした授業改善を推進してこられましたが、今年度から取り組んでいる「英語スタンダード（ネクストステージ）」のねらいとポイントについて、もう少し掘り下げてご説明願います。

山 崎 区 長 指導室長。

伊 藤 指 導 室 長 これまでのスタンダードの成果と課題や新学習指導要領の趣旨を踏まえまして、江東区のこどもたちのコミュニケーション能力の一層の向上をねらいとして、「英語スタンダード」のネクストステージを策定したところです。

改訂のポイントとしましては、小学校・中学校共通の内容として、「英語で積極的にコミュニケーションをとります」を設定し、英語の授業において話す、聞く、やりとりをする場面の充実を図り、生きた英語がこどもたちに身につくよう、授業改善の視点を示したところです。

今後、具体的な授業をとおした指導例をまとめ、指導資料として配付をしていく予定になっております。

山 崎 区 長 ほかにご意見ありますか。進藤委員。

進 藤 委 員 教員の指導力向上というところで、小学校で質の高い英語教育を展開

するためには、先生方の指導力の向上はもとより、外国語指導助手（ALT）の活用など、指導者の確保・充実が大切であると考えております。
先生方の英語研修の実施状況、また、英語専科教員や外国語指導助手（ALT）の配置状況についてご説明願います。

山崎区長 指導室長。

伊藤指導室長 まず、英語研修の実施状況についてですけれども、今年度は本区の代表として国の研修に参加し、指導方法を学んだ教員を講師として、全小学校の英語担当教員を対象に、年5回、合計12時間の研修を行いました。

また、全中学校の全英語教員を対象とする研修会を年7回、合計14時間行いました。

外国語指導助手（ALT）は、小学校では1・2年生に年5時間、3・4年生に年10時間、5・6年生に年30時間配置しております。中学校は各学年、年35時間配置をしています。また、特別支援学級には、全学級に年5時間配置しているのが現在の状況です。

なお、外国語指導助手（ALT）の配置時間を、来年度から増やす予定です。小学校1・2年生に12時間（7時間の増）、3・4年生に18時間（8時間の増）、5・6年生には35時間（5時間増）と、増やしていくことを検討している最中です。

また、都派遣の英語専科教員についてですけれども、今年度4校に配置されている状況になっております。次年度に向けても今のところ5校が新たに申請をしている状況となっております。

今後も英語研修の充実を図るとともに、小学校への英語スタンダード強化講師の配置を検討するなど、指導者の確保、充実に努めてまいりたいと考えております。

山崎区長 ほかにご意見ありますか。眞貝委員。

眞貝委員 平成29年度、区内全小中学校にタブレットパソコンが配備され、今年度は、小学校5・6年生の教室に電子黒板が設置されるなど、ICT環境の整備が着実に進んでいると思っております。また、子どもたちが英語を楽しく学び、学習内容を確実に身につけるためにも、ICT機器の活用が大切であると考えております。そこで、授業での活用例や、効果的な活用方法などございましたらご説明願います。

山崎区長 指導室長。

伊藤指導室長 授業での活用としましては、例えば、電子黒板を活用して教材を画面

に映し出して、会話の場面をこどもたちに思い浮かべさせたり、また、DVD等の教材を活用してネイティブの発音を聞きながら学習を進めたりしております。

また、教員が事前に撮影した会話のデモンストレーションを動画で流すなどして、こどもたちの興味関心を高めるとともに、自信を持ってコミュニケーションをとることができるよう、指導の改善に役立てております。

こどもたちの学習としては、グループ学習の場面で友達とのやりとりの様子を他の児童に動画で撮ってもらい、自身で振り返ったりするなど、主体的な学習が期待できると考えております。

今後は、こどもたちがタブレットパソコンを使用することによって、わからない英語の表現を教科書の二次元コードを使い、自分の学習のペースで繰り返し確認したり、自分の発音を録音して、比較しながら確認をしたり、またさらには、外国人とインターネットを使って交流したりする活動にも活用できると、授業の範囲が広がると考えております。

また、デジタル教科書の導入時にもICTを活用した授業が一層充実するものと考えております。

山 崎 区 長 ほかにご意見ありますか。鈴木委員。

鈴 木 委 員 英語で話す機会の充実についてお伺いいたします。

こどもたちが英語でコミュニケーションをとることの楽しさや大切さを知るためには、実際に英語を使う機会を確保することが大切であると考えます。

中学生のカナダ短期留学や、小学生のTOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG)の活動などを実施してこられましたが、今後、英語で話す機会の充実・拡充などをどのように図っていくのか、ご説明願います。

山 崎 区 長 指導室長。

伊 藤 指 導 室 長 今年度は、本区で小学校英語の教科書について、やりとりの内容が充実したものを採択しております。次年度以降は各学校でこの教科書を使いまして、指導方法を工夫することで英語のやりとりをする場面の充実が期待できると考えております。

また、中学生が日ごろの学習の成果を発揮したり確認したりできるよう、カナダ短期留学に加えまして、2年生において、TOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG)での学習体験を実施できるよう検討してまいります。

小学校5年生の体験から自分がどれだけ成長することができたかについて、実感する機会にもつながるのではないかと考えております。

このほかにも英語学芸会の取組みを推進するなどして、英語で話す機

会の充実を図ってまいりたいと考えております。

山 崎 区 長 ほかにご意見ありますか。教育長。

岩 佐 教 育 長 英語教育の充実の観点からお話をさせていただきたいと思います。

本区では、小・中学校の英語指導を支援して、英語教育を充実させるために、中学校の英語の教員と小学校の教員が一緒になって英語教育推進委員会を開いて取り組んでいます。

そして、その取組みが一定の成果を上げており、多くの子どもたちがコミュニケーションとして英語を楽しんでいる場面が多くなっています。

先日の12月6日の人権の集いでは、五大小の5年生が人権のメッセージを発表しており、学芸会で発表したばかりの、「すべての山に登れ (Climb Every Mountain)」という歌を、たくさんの子どもたちがとても見事な合唱を披露してくれました。

英語を学習というだけではなく、楽しむという観点で、いろんな学校の中に根っこができてつつあるのかなと、私たちは思っています。外国語活動は、英語を学習する中心の場ですが、そこで学んだことを生かして、学校の教育活動全体の中で、英語を楽しみながら使えるような場面をもっと増やしていきたいと思っております。

中学校については、説明がありましたが、英語学芸会で英語劇をやっている学校が、23校のうち20校あります。そういう実績のある取り組みですので、今後はこうした活動はもちろん、英語のスピーチコンテストや、発達段階に応じてはレシテーションコンテストといった英語を使う場をもっと増やしていきたいと思っております。

山 崎 区 長 小学校にALTやスタンダードの教科講師を配置していくことになりましたが、質の高い人材を確保することはできるのでしょうか。

伊 藤 指 導 室 長 ALTにつきましては、派遣業者が講師育成を図っています。その中で研修を経て江東区に配属されていますので、かなり訓練を受けた、質の高いALTの講師が江東区に来ています。

それから、スタンダード講師については、まだまだ発掘していく必要があると思います。そのため、教育委員会でも研修等を実施しながら、江東区の英語教育の中で何を進めていくかということをも十分理解をした上で、子どもたちの前に立っていただくようにしてまいりたいと思っております。

山 崎 区 長 ALT、スタンダード講師ともに外国人を配置しているのでしょうか。

伊藤指導室長 A L Tにつきましては外国人を充てるということで考えております。スタンダード講師については、基本的に日本人で、海外での生活がある方や、仕事で渡航の多い人、外国の方で日本人への教育に興味の深い方など、こういった方々が地域にかなりいますので、発掘して、充てていきたいと思っております。

山崎区長 どうやって発掘していくのでしょうか。

伊藤指導室長 地域の方や、P T Aの役員さんなどがかなりネットワークを持っていたりします。また、町会の方々の中にも知り合いがいたりすることがあります。今、保護者の方にも外資系の会社とか、さまざまところに勤めている方がいますので、ネットワークを生かしながら、探していくことは可能であると考えております。

山崎区長 それでは、この議題は終わります。
次に、「オリンピック・パラリンピック教育について」を議題といたします。事務局から説明願います。指導室長。

伊藤指導室長 それでは、江東区のオリンピック・パラリンピック教育の取組みについてご説明いたします。資料2をごらんください。はじめに左上のボックスからご説明をいたします。

江東区オリンピック・パラリンピック教育の意義についてですが、区内で20の競技が行われる恵まれた環境を生かし、次代を担う子どもたちに将来の自己実現に生きるよう、豊かな体験を得させることを目的として、取組みを進めております。

その右にあります、子どもたちが目標を明確にして取り組めるよう、「子どもテーマ」として、「見つめよう！自分」、「伝えよう！江東・日本」、「知ろう！世界・ともだち」、「関わろう！SPORTS & SUPPORTS」として示し、取り組んでおります。

重点的に育成すべき資質としては、ボランティアマインド、障害者理解、スポーツ志向、日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚の5点の育成を目指しております。

それでは、これまでの取組み、2020年の取組み、2021年からの取組みに分けてご説明をいたします。

まず、これまでの取組みについてです。左下のボックスをごらんください。

全員プランとしては、「世界ともだちプロジェクト」を実施し、各学校で担当した国を調べたり交流したりしてまいりました。英語スタンダードで取り組む授業を通して、コミュニケーションを重視した英語を身につける学習も進めてまいりました。

学校プランとしては、デイカウンターの取組みを全校で行い、大会開催までの機運を高める取組みを進めてまいりました。

「夢・未来プロジェクト」では、アスリート等を学校に招いて、実技指導や、困難を乗り越えてきた話等から、こどもたちが自らの生き方について考える機会を設けてまいりました。

給食におきましては、世界各国の料理を取り入れ、食を通して世界の国について学ぶきっかけとしてきました。

また、こどもたち主体の取組みとして、節目の日にち、例えば、〇日前集会というような形での取組みを実施したり、学校だより、ホームページ、掲示コーナー等で学校や園の取組みの情報発信に努めたりしてまいりました。

学校プランとしては、小学校5年生がバスで区内の建設中の会場をめぐり、2020年の開催に向けた機運の醸成を図ってまいりました。

「世界の国旗・国歌について学ぼう」では、世界ともだちプロジェクトの担当国の国旗や国歌について理解を深める学習を進めてまいりました。

教科プランとしては、「江東区オリンピック・パラリンピック学習リーフレット」を作成し、授業での活用を通して、区内で開かれる競技について理解を深めたり、本区出身の瀬立モニカさんからいただいたメッセージをもとに、自分のこれからの生き方について考えたりする学習に取り組んでおります。

特別プランとしては、「部活動☆夢応援プロジェクト」として、中学校の部活動にオリンピック等を招いて、生徒の夢をサポートする取組みを進めてまいりました。

ポッチャ交流行事推進事業としましては、ポッチャセットの貸し出しを行い、こどもたちがポッチャを実際に体験する機会を設けるとともに、ポッチャを通して異校種の学校間の交流活動の推進や、特別支援学校との交流等も進めております。

次に、2020年の取組みについてです。

1月20日に開催する「こうとう学びフォーラム」では、各学校のこれまでの取組みについて発表するとともに、アスリートとのディスカッションを実施するなど、機運の醸成を図ってまいります。

各プランの継続した取組みとしましては、こどもたち主体の取組みの一層の充実を図ってまいります。東京2020大会におけるこどもの競技観戦についてですが、区内の競技会場にて全てのこどもが競技を観戦できるようにしてまいります。オリンピックの観戦には小学校5・6年生、中学校1から3年生が、パラリンピックの観戦には幼稚園の5歳児、小学校1から4年生が観戦を行う予定となっております。観戦予定競技はバレーボール、水球、体操、ポッチャ、車椅子バスケットボール等となっております。

「こうとう☆花いっぱい運動」としては、全校・園でこどもたちがプランターで花を育て、ラストマイルに設置することを計画しております。

ドキュメンタリー記録としては、またとない年の各校・園の取組みの様子を、映像や冊子に記録しまとめていく予定であります。

ブラスバンドでの応援としては、関連イベント等にて応援の機会を設けてまいります。

特別プランへの積極的な参加としては、ボランティア等の機会についてオリンピック・パラリンピック推進課との連携を図って進めてまいります。

最後になりますが、2021年からの取組みについてです。レガシーを生かした教育の推進を図ってまいります。

1点目は、こどもたち一人一人の心と体に残るレガシーとすることです。アスリートとの交流につきましては、こどもたちにとって貴重な学習の機会として継続して進めていきたいと考えております。また、体力スタンダードや教科等と関連づけて、自ら目標を立て、その実現に向けて努力しようとする力の育成に努めてまいります。

2点目は、教育として受け継がれていくレガシーについてです。英語スタンダードの取組みを柱に、コミュニケーションの力を高める英語教育の一層の充実を図ってまいります。

3点目は、地域社会に広がり定着するレガシーについてです。障害の有無に関わらず、相互理解を図る教育を推進するとともに、ボッチャ等を通して広がった交流活動を一層推進してまいりたいと考えております。

そのほかに、ドキュメンタリーDVDや冊子の活用を図り、各学校の取組み等の映像や記録を、今後の学習で活用していくことを考えております。

山 崎 区 長 本件について質疑を願います。鈴木委員。

鈴 木 委 員 江東区オリンピック・パラリンピック教育推進計画に基づいて、各学校や園が充実した取組みが行えるように、2016年から教育委員会が支援をしていることはよくわかりました。では、各学校・園において、こどもたちが主体的に取り組んでいく内容はどのようになっているのか、ご説明願います。

山 崎 区 長 指導室長。

伊 藤 指 導 室 長 こどもたちの主体的な取組みについてですけれども、各学校が実態に応じて、さまざま工夫を凝らして実施をしております。

例えば、オリンピック開会300日前を記念しまして児童集会を行った学校では、オリンピックの歴史を劇にしてあらわしたり、区内で行わ

れる競技について説明し、一人一人見てみたい競技について投票したりするなど、全児童で、オリ・パラに対する興味や関心を高める取組みを実施しておりました。

また、おもてなしの心を育むため、学校内で花を育てたり、ボランティアマインドを育むため、地域の清掃を中学生が指導役になり小学生と一緒にいたりするなどの取組みも進められております。

来年には、区内全校のこどもたちが育てた花を競技会場までのラストマイルに設置する「こうとう☆花いっぱい運動」を実施するなどして、一人一人が自分も関わっているという意識を高めてまいりたいと考えております。

山 崎 区 長 ほかにご意見ありますか。眞貝委員。

眞 貝 委 員 各学校を訪問いたしますと、生徒たちが作成した「デイカウンター」などが設置されています。こども達とともに学校を訪れた保護者や地域の方々と一緒にオリ・パラの開催を楽しみにすることができるとてもよい取組みだと思っております。

今後、地域・保護者に、学校園が行っている取組みの情報発信の一つとして、「こうとう学びフォーラム」が1月20日に実施されるとのことですが、具体的な内容についてご説明願います。

山 崎 区 長 指導室長。

伊 藤 指 導 室 長 こうとう学びフォーラムについては、令和2年1月20日に江東区文化センターにて開催する予定です。

東京オリ・パラ開催年のキックオフイベントとなるよう企画をしております。会の中では、幼稚園の幼児による東京五輪音頭を披露したり、また、児童・生徒が自分たちが取り組んできたことについて発表する予定です。

また、車椅子バスケットの元日本代表選手である根木慎二さんをお招きしまして、パネルディスカッションを行い、オリ・パラに対する理解を深めるとともに、アスリートの心情等についてもお話をさせていただく予定であります。

さらに、本区出身のパラリンピアン、瀬立モニカさんより、ビデオメッセージをいただく予定となっておりますので、参加していただく方やこどもたちが一緒に大会を盛り上げる機運を高める機会となるよう、現在、準備を進めているところであります。

山 崎 区 長 ほかにご意見ありますか。進藤委員。

進藤委員 ボッチャの交流行事推進事業についてお伺いします。
江東区は今年度「ボッチャの交流行事推進事業」に指定されているとの説明がありましたが、ボッチャは区内競技場でもある有明体操競技場において行われます。区内で開催される競技をこどもたちに体験できるいい機会だと思いますが、その具体的な内容についてご説明願います。

山崎区長 指導室長。

伊藤指導室長 これまで、各校・園におきましては、アスリートを招いた競技体験をさまざま行っております。とりわけボッチャにつきましては、指導室がボッチャセットの貸し出しを8月から行っており、これまで12校園が活用している状況となっております。

また、ボッチャを活用した異校種交流も行っております。例えば、小学生と特別支援学校とが交流することや、連携教育の日に小学生が幼稚園の幼児と交流をしたり、参加した教員同士がボッチャを体験したりするということを予定しているところです。

今後は、ボッチャを通してつながった人と人とのかかわりの輪を広げていく活動を推進していくように考えております。

山崎区長 ほかにご意見ありますか。橋本委員。

橋本委員 大会後について、こどもたちは大会が開催されてすごく多くのことを体験して、いろいろなことを学ぶことになりましたが、大会後に学校・園として取り込まれるものについてご説明願います。

山崎区長 指導室長。

伊藤指導室長 大会実施後のレガシーについて、こどもたちや区民のレガシーとなるよう、オリ・パラ教育の取組みをドキュメンタリーDVDと冊子として作成して、記録していくことを予定しております。

その際の視点がこどもたち一人一人の心と体に残るもの、教育として受け継がれていくもの、地域社会に広がり定着していくものの3点を考えております。

記録を通して、次の世代のこどもたちが学べるように、また、体験した時の記憶が残るように、さらには、そのこどもたちが大人になった時に、次の世代に語れるようにレガシーを生かした教育が継続するよう取り組んでまいりたいと考えております。

山崎区長 ほかにご意見ありますか。教育長。

岩佐教育長 今、レガシーの話が出ましたが、それに関わる話をさせていただきたいと思います。

資料2の上段の真ん中に、江東区オリンピック・パラリンピック教育の「こどもテーマ」が示してあります。4つのテーマがあり、「見つめよう！自分」「伝えよう！江東・日本」「知ろう！世界・ともだち」「関わろう！SPORTS & SUPPORTS」となっております。

来年、オリ・パラ本番を迎えますと、このテーマのもとで今のこどもたち、一番長い子で5年間、このオリ・パラ学習を継続したということになります。同じように、学校・園のほうは、5年間、オリ・パラ教育を、いろんな工夫をしながら進めてきました。

この「こどもテーマ」、4つ見ていただきますと、これはオリ・パラ教育という視点を外しても、教育のいわば普遍的なテーマになっており、これまで5年間のこどもたちの学んだことや、学校・園が工夫しながら指導を進めてきたことは、次の教育の大きな材料になると思っております。

そういった意味で、来年、競技が終わったところで、5年間のオリ・パラ学習、オリ・パラ教育の総括をした上で、レガシーに繋げていきたいと考えています。

山崎区長 ほかにご意見ありますか。眞貝委員。

眞貝委員 先日、江東ケーブルテレビで、区長記者会見を拝見させていただきました。その中で、江東サポーターズが1,000人を超えたというお話を伺い、既に区民まつり、シーサイドマラソンなどの運営に携わったということでしたが、来年のオリ・パラに向け、中学生ボランティアの養成についてお聞きしたいと思います。

山崎区長 指導室長。

伊藤指導室長 ボランティアにつきましては、オリ・パラ推進課と連携をしまして、こどもたちができるものについて、さまざま探っているところです。

例えば、ラストマイルのところで、競技場を訪れるこどもたちが体調を崩したときに受け入れるということも依頼を受けているところです。

また、中学生ボランティアについては、まだ仕事が見えないところもありますけれども、オリ・パラ推進課と連携する中で探していきたいと思っております。

例えば、江東サポーターズにつきましては、江東区内の小・中学生が、今、活動しているものをオリ・パラに向けてという共通の目標として取り組むことができないか検討しているところです。

山 崎 区 長 それでは、この議題は終わります。

次に、「教育施策の大綱及び教育振興基本計画の改定について」を議題といたします。事務局から説明願います。庶務課長。

岩 井 庶 務 課 長 では、資料に沿って説明いたします。資料3になります。

第2期教育推進プラン・江東の策定についてでございます。

まず、資料左上の「背景」として3点挙げておりますが、1点目は社会環境の変化としまして、我が国では急激な高齢化が進む中、これまでこどもたちを見守ってきた地域社会は高齢者等が増える一方で、地域活動に関心を持つ住民は少なくなってきた、人と人の繋がりが希薄になりつつあります。また、女性が社会で活躍する機会が増え、こどもが学校から帰宅する時間帯に両親が在宅していない家庭が多くなるなど、こどもを取り巻く生活環境は大きく変化しております。

加えて、学校では、グローバル化の進展により本区に流入する外国人居住者は増え続けておまして、区立小中学校就学児童・生徒に占める外国人の割合は5年前の平成26年では約2%だったのが、今年度は3.7%になっております。

次に2点目、「教育ニーズの多様化・複雑化」とありますが、これからのグローバル社会を生きていく上で必要な英語教育やICT教育への対応など、学校教育は質・量ともに高いものを求められている一方で、不登校児童・生徒のフォローや、外国人児童・生徒への支援、保護者や地域からの要望への対応など、学校や教員が担っている役割は多岐にわたっております。また、社会環境の変化に伴って、家庭や地域における見守りが少なくなる中、教員が児童・生徒のあらゆる問題に関わることも少なくなると、放課後におけるこどもの居場所の確保やいじめ問題など、学校に対するニーズはますます複雑化している状況でございます。

また、3点目に「東京2020大会の開催とレガシー」とありますが、先ほどの議題の中で触れられましたが、オリ・パラの東京開催はこどもたちの夢や希望、将来への可能性を拓ける格好のチャンスであり、その成果をレガシーとして未来へ繋げていくことが重要と考えております。これまでオリ・パラ教育を着実に進めてまいりましたが、大会終了後、5年先、10年先を見据えた取組みが求められています。

次に、資料の「江東区の現況」をご覧ください。

江東区では、平成13年度に教育改革江東・アクションプラン21を策定し、平成23年に教育推進プラン・江東を策定いたしました。教育推進プラン・江東は、教育基本法第17条2項が定める江東区の教育振興基本計画として位置づけるとともに、平成28年度には後期の5か年計画として改定し、4つの柱、それに紐づく13の重要施策、23の取組方針及び重要課題等を挙げております。令和2年度をもって計画期間が終了するため、令和3年度以降の計画、以降は「プラン」と言わせて

いただきますが、新たなプランを策定する時期ということでございます。

資料右にいきまして、「新たなプラン」とありますが、新たなプランにおいてキーワードとなる取組みや課題を例示いたしました。例えば、江東区長期計画は、現在の計画が今年度で終了となるため、令和2年度から10年間の計画を今、策定中でございます。当プランは長期計画の分野別計画として整合性を図る必要がございます。また、来年4月から導入される新学習指導要領や、地域社会の変化に対応した地域協働のあり方、グローバル社会への対応、教育の質を高めるための働き方改革などをキーワードとして表記したところでございます。

加えて、資料右側にもありますとおり、昨年度に策定された国や東京都の教育振興基本計画を勘案しながら、区独自のプランを練り上げていく考えてございます。

資料左下をごらんください。

「主な教育課題と取組イメージ」とありますが、事務局では平成25年度から全小・中学校で始めたこうとう学びスタンダードの取組みの成果やその課題を生かして、ネクストステージへ発展させるとともに、実際には来年度検討する内容ですので、あくまでもイメージですが、資料の右下のとおり、主に4つの教育課題の視点から、力を入れるべき取組みを記載しております。

まず、「①新たな時代を生き抜く人材育成」とありますが、今後到来すると言われているSociety（ソサエティ）5.0、超スマート社会に対応し、グローバルに活躍できる人材を育成するため、英語教育のさらなる進展・推進や、ICT環境の充実が必要となっております。

次に「②個に応じた教育支援」としまして、外国人児童・生徒の急増や、特別な支援を必要とする児童・生徒の増加に対応するための支援体制の整備が必要となっております。

また、「③家庭や地域の教育力向上」とありますが、家庭環境の多様化や地域コミュニティの変化を踏まえた学校・家庭・地域の連携体制を構築する必要がございます。

最後の「④教育の質を高める環境づくり」ですが、上記の①から③のような教育課題を解決し、江東区のこどもたちに良質な教育を安定的に提供するためには、組織的な学校経営の推進や外部人材の活用、教員の資質向上、学校における働き方改革などが、必要ではないかと考えております。

課題の右側には、それぞれの教育課題に応じた取組み援助を記載しております。繰り返しになりますが、具体的な取組みについては来年度に実施する、プランの策定作業の中で検討いたしますので、現時点での想定としてお示ししております。

最後に資料右側は策定のスケジュールでございます。

過去5年間において学校教育を取り巻く環境が大きく変化したことを

踏まえまして、新たなプランの策定に当たっては、教育に関する意識調査やパブリックコメントなどにより区民のニーズを的確に捉えるとともに、学識経験者や学校PTA、地域の代表者などを委員とする策定委員会を設置しまして、さまざまな声を取り入れる必要があると考えております。

また、平成28年2月に策定した江東区教育施策大綱は平成28年度から5年間、つまり、令和2年度までの取組指針であったことから、大綱の見直しもあわせて必要となっております。プランの策定に当たっては、大綱の見直しと十分に連携を図り、江東区として教育施策に関する方向性が大綱とプランとで一致するように留意するほか、大綱が定める教育目標や方針と、プランが連動して機能するよう、次期プランより計画期間を大綱に合わせて5年間としたいと考えております。

資料の表は令和2年度における策定スケジュールの概要となっております。令和2年5月に第1回策定委員会を立ち上げまして、江東区が今後取り組む教育施策の方向性について意見交換を行い、それらの意見を踏まえてプランの骨格を策定いたします。

その後、6月から7月にかけて、保護者等を対象とした教育に関する意識調査を行い、8月の第2回策定委員会で報告するとともに、この結果を、9月の第3回策定委員会検討するプランの素案に反映させた上で、令和2年第3回区議会定例会に報告をするという運びで考えています。

素案につきましては、10月から12月にかけてパブリックコメントを行い、令和3年1月の策定委員会において最終案を作成し、令和3年3月に最終決定をする予定でございます。

山 崎 区 長 本件について質疑を願います。鈴木委員。

鈴 木 委 員 「Society（ソサエティ）5.0」、超スマート社会についてお伺いいたします。

現在の情報社会、つまり、「Society（ソサエティ）4.0」からどのように変わるのか、具体的にイメージができるものがあれば教えてください。また、超スマート社会を生きるこどもたちには、どういった教育が必要なのか、あわせてご説明願います。

山 崎 区 長 庶務課長。

岩井庶務課長 「Society（ソサエティ）5.0」とは政府が提唱している未来社会のコンセプトで、その中ではこれまで人類が生きてきた社会を4段階で説明しています。

1番目は狩猟社会から始まりまして、2番目が農耕社会、3番目が工業社会、4番目つまり4.0ですね、現代が情報社会とされまして、そ

れに続くデジタル革新、新たな技術の中で生まれる5番目の社会を示すものだと捉えています。

現代では、例えば、現在の私たちのスマートフォン。現在、私たちがスマートフォンを持って、ニュースなど各自が必要な情報についてスマートフォンを操作して調べていますが、「Society（ソサエティ）5.0」では、スマートフォンが我々の行動や習慣を感知して、我々がスマートフォンを使わなくても、スマートフォンが我々の必要な情報を提供し、提案してくれる世の中になるといわれております。

これは超スマート社会の一端でございますが、昭和世代の私たちがここまで携帯電話が普及するとは思っていなかったように、今後、私たちの想像をはるかに超える社会が訪れると考えられます。

こうした未来の社会で求められる人材とは、高度な研究開発能力や外国語による高いコミュニケーション能力、また、環境変化への対応力を有する人材でございます。こどもたちが自分の力で生き抜くため、理数教育やプログラミング教育などの論理的思考を養う教育や、英会話の能力を養う教育、また、こどもたちの自己肯定感を高め、心身の健やかな成長を促す教育などが必要であると、このように認識しております。

鈴木委員 それはプログラミング教育と英語教育に力を入れていくということでしょうか。

山崎区長 庶務課長。

岩井庶務課長 現段階で、注力すべきことはそこだと考えております。これから先、色々な変化が訪れると思いますので、その時々を見ながら適切に対応していきたいと考えております。

山崎区長 ほかにご意見ありますか。橋本委員。

橋本委員 教育ニーズの把握についてお伺いします。

平成28年3月に教育推進プラン・江東の後期計画を策定して間もなく4年となりますが、時代も平成から令和となり、来年にはオリ・パラが開催されるなど、まさに新しい時代の幕開けだと言えます。

新たな時代の計画を作る上では、保護者や教員、地域などの声をしっかりと反映させることはとても大切だと考えますが、資料にある「意識調査」がそういうことであるのか、もう少し詳しくご説明願います。

山崎区長 庶務課長。

岩井 庶務課長 行政に対する取組ニーズというのは、時代とともに変化するものと、しないものがあります。例えば、学力向上、思いやりの心の育成といったいつの時代でも求められるものがある一方で、東京2020大会のレガシー活用、生活環境や個人の事情等に応じた居場所づくり、教員の働き方改革など、数年前には考えていなかった教育課題も現在、出現しております。

今回、教育に関する意識調査を行うことで、普遍的なニーズはさることながら、5年前にはなかった教育行政のニーズを掘り起こし、調査結果の集計・分析においては、さまざまな角度から検証を行って、江東区の子どもたちが置かれている現状をしっかりと把握することで、新たなプランの実効性を高めていきたいと考えています。

山崎 区長 ほかにご意見ありますか。進藤委員。

進藤 委員 新たなプランについてですが、資料には「主な教育課題と取組イメージ」ということで、さまざまな視点で興味深いものが並んでいると思います。具体的な政策や取組みについては、新しいプランを策定する際に併せて検討されるのだと思いますが、現時点で「これは新しい時代に必要だ」というものがあればご説明願います。

山崎 区長 庶務課長。

岩井 庶務課長 新学習指導要領の中には、子どもたちの「生きる力 学びの、その先へ」と記載されており、これまで大切にされてきた「生きる力」に加えて、これからの社会がどんなに変化しても、自ら課題を見つけ、考え、行動し、幸せを実現してほしいという思いが込められております。新プランでの取組みにおいても、こうした考えを踏まえて検討していくことです。

現時点で特に力を入れるべきと考えているのは、資料の左側、「主な教育課題と取組イメージ」の①の、英語教育のさらなる推進と、ICTによる学びの充実です。

具体的には、英語教育については、先ほども英語教育の中でTOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG) について取り上げられましたが、今後も外国人が話す生きた英語、こうしたものに触れる機会を増やしていくなど、実践的な英会話能力の向上に取り組みたいと考えております。

また、ICTについては、新学習指導要領において情報活用能力が学習の基盤となる資質能力として位置づけられるということを踏まえて、今、世界で進んでいる技術革新のスピードに江東区の子どもたちが乗り遅れることのないように、ICT環境の整備、充実、拡充を進めていきたいと考えております。

未来を担うこどもたちが絶えず変化する社会の中で生き抜くために、私たち大人が社会の変化を的確に把握して、こどもたちの可能性を引き出し伸ばす取組みをしっかりとやっていくことが必要だと考えております。

山 崎 区 長 ほかにご意見ありますか。眞貝委員。

眞 貝 委 員 計画の策定体制についてお聞きしたいと思います。

昨年度まで教育委員会の所管でありました児童館は、こども未来部へ移管され、子ども家庭支援センターと連携しながら、児童福祉の増進に取り組んでいると承知しております。一方で、行政の中での役割分担というのは、こどもたちや区民にとって関係のない話で、児童館に行ったり、公園で遊んだり、地域活動に参加したり、教育の枠組みではおさまらないものと思います。未来を担うこどもたちを育てるため、新プランの策定はどういった体制で検討されるのかご説明願います。

山 崎 区 長 庶務課長。

岩 井 庶 務 課 長 委員ご指摘のとおり、現在、こどもを支える教育の枠組みは多岐にわたっておりまして、さまざまな問題を多角的に捉える必要があると考えております。

策定委員会は、学識経験者、公募区民、学校、PTAや地域の代表者で構成する予定でございます。また、その下部に位置づける検討部会には、こども未来部や地域振興部、生活支援部など、こどもに関わる部署の部課長にも参加を要請し、庁内の横の連携を図り、多様な意見をいただきながら検討していきたいと考えております。

山 崎 区 長 ほかにご意見ありますか。教育長。

岩 佐 教 育 長 来年度に策定する次期プランのもとで育っていくこどもたちが自己実現を果たす2030年代、あるいは2040年代というのは、情報化やグローバル化が人間の予測を超えて進展をして、既存の組織のあり方、人の生き方では、対応が困難になると言われております。

「Society（ソサエティ）5.0」の社会では、AI等の進展が非常に早く進むということで、ある意味で世の中は便利になる一方で、受け身でも生活ができてしまう。つまり、みずから主体的に動かなくても、受け身の生き方でも生活が成り立ってしまうといったことが起こる可能性が危惧されております。

そういった意味では、これからの時代を生きていくこどもたちには、主体性というキーワードが必要不可欠になってくると思います。そして、

こうした世の中をたくましく生きていくためには、3つの力、学びを人生や社会に生かそうとする力、生きて働く知識と技能、そして、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を育てていく必要があると思います。

先ほど、鈴木委員に対してご答弁しましたプログラミング教育と英語教育も大きな課題ですが、こどもに主体性を育てるということが次のプランの中核になってくると思いますので、主体的、対話的で深い学びができるように、どうやって育てていくかということが、大きな課題になると考えております。

こうした学びを実現させるためのツールとして必要不可欠になってくるのが、タブレットやICTといったものですので、教育委員会としては、そのための環境整備をしていくことが大きな務めになります。

また、グローバル化が進展する中では、英語の力、発達段階に応じて、英語でコミュニケーションをする力というものを、こどもたちにそれぞれの学年、発達段階に即して、しっかりと身につけさせてあげることが大事になってくると思います。

他にもさまざまな課題がありますが、特に次の時代を担うこどもたちに育てる必要がある大きなところは、今申し上げたものだと思います。

次期プランの策定に当たりましては、こうした変化への対応の部分と、いかに時代が変わっても決して変えてはいけない不易の部分と、よく峻別し、庁内の関係部署と連携しながら、最高のプランができるように策定作業を進めていきたいと思っております。

山 崎 区 長 ほかにご意見ありますか。鈴木委員。

鈴 木 委 員 この資料を拝見していて、取組イメージの「②個に応じた教育支援」というところで、外国人児童・生徒への教育支援ということで、外国人が急増しているということです。

一部の地域では外国人の生徒が非常に増えて、ちょっと心配だという声も聞いたことがあります。この資料では「整備が必要である。」と書いてありますが、早急な対応も必要なのではないかとも思いますが、どのような支援体制をお考えなのかご説明願います。

山 崎 区 長 教育支援課長。

堀越教育支援課長 今ご指摘いただいた、外国人生徒の増加については、地域によって偏りがございます。教育支援課で配置している日本語講師については、学校からの要請に応じて配置しているほか、NPO法人を活用し、放課後の土曜・放課後学習教室の講師に中国語のわかる講師を配置して、受験勉強ができる学習言語の習得を図るなど、さまざまな展開を進めている

ところです。

こどもたちの数に応じて適切に増員等を検討していきたいと考えております。

山 崎 区 長 ほかにご意見ありますか。眞貝委員。

眞 貝 委 員 土曜日の日本語教室は今、区内何カ所にありますか。

山 崎 区 長 教育支援課長。

堀越教育支援課長 土曜日に展開している日本語教室については、LVCというNPO法人を活用しております。亀戸地区に1カ所と、東陽町の教育センター1カ所で展開しております。

山 崎 区 長 ほかにご意見ありますか。
それでは、本件については終了といたします。
本日の議題は以上でございます。
事務局から何か報告ありますか。次長。

武越教育委員会事務局次長 事務局よりお知らせいたします。今年度の総合教育会議は、今回が最後の開催となります。次回の開催は、来年度を予定しておりますが、緊急にご議論いただくべき事項が生じましたら別途調整させていただきます。以上でございます。

山 崎 区 長 以上をもちまして、令和元年度第2回江東区総合教育会議を閉会といたします。

— 了 —